

# 青年海外協力隊マレーシア会

会報 第4号

発行 2013.6.30

## プチ同窓会と 3.11

元青年海外協力隊マレーシア駐在員 平澤 昭男

今年の4月中旬、宮城県松島で仙台市近郊のOVたちの企画でプチ同窓会が開かれ、参加させてもらった。会は二幕で構成され、一幕目は松島のホテルでの懇親会。10人あまりの参加者のうち半数ほどはスパン空港で帰国を見送って以来の再会で大いに話が盛り上がった。参加者のうち男性は私を入れて3人だけ。残りはみんな往年の乙女たちだったからその盛り上がり振りは容易に想像できるというものだろう。二幕目は東日本大震災で大きな津波被害を受けた宮城県名取市の閑上（ゆりあげ）地区見学を主とし、福島県伊達市在住の羽賀さん（54-4）のお宅に大勢がお世話になった。

被災地を訪れる勇気がなかった私に、観光で見に来てくれるだけでいいですよと言ってくれた人がいたが、今回同窓会に参加させてもらった背景はそのひと言が大きく心に残っていたからでもあった。

松島から多賀城を経て名取市に入り、海に近い県道に乗り入れてから周りの景色の変わりように急速に気持ちがいびきこむ。テレビで、新聞で、よく目にした光景だが、どこかで現実ではない世界だと思い込もうとしていた。だけど目の前の景色は現実のものだ。限りなく広がる上物を持たない土台たち……。ここに押し寄せた津

波が900人余りの人たちの命を奪ったのだと思うとしばらく声が出なかった。名取の住人で震災当時は東京にいたという折笠さん（54-4）の、自分の家から海までこんなに近いとは知らなかったという言葉が実感としてよく分かる。被災地のほぼ中央に日和山という高さ5メートルほどの小さな丘があり、二つの神社が鎮座しているが、そこからの風景にはさらに息をのむ。もともと平坦な地形の閑上地区の真ん中にある丘だから、小さいとは言っても360度見渡せる。かつて丘の周りには民家が立ち並び多くの人々が平和な日常を送っていたはずだ。でも今は何もなく、残された土台だけがそれを物語っている。



日和山から見た閑上地区

日和山の近く、閑上中学校の前に「閑上げの記憶」がある。被災した人々に前に進むために自分たちが生きてきた「記憶」や津波によって多くのものを失った「記憶」と感情を整理し、心の中に平穏を取り戻すことで未来へ向けた意欲を出してもらおうと、名取市に本拠を置くNPO法人「地球のステージ」を主宰している桑山紀彦さんたちが設置した。パンフレットによると、そこはある人にとっては（中学校校庭に設置された）慰霊碑の「社務所」であり、ある人にとってはお茶を飲む「カフェ」であり、ある人にとっては写真や動画を見ることが出来る「資料館」であり、ある人にとっては心のケアのためのワークショップを行う「現場」



「閑上げの記憶」でお話を伺う

でもある、とされている。いわば被災した人々たちにとっての心の拠りどころであるが、私たちはここで震災のときのお話を聞きながら当時の映像を見せていただいた。

津波が仙台平野を襲う映像はテレビでも再三見ていたが、今回見せていただいた中で今まで以上に心を痛めたものがある。それは、津波が押し寄せる中、「閑上げの記憶」からさして離れていない閑上小学校を写したもので、学校の屋上に逃れた大勢の子供たちの姿があった。学校の下を、家が、車が、人が流されていたのであろうが、その光景が子供たちの目にどのように焼きついたのであろうかと思うと、本当に心が痛い。三陸沿岸でも多くの町が津波に襲われ、多くの人たちが高台に避難して自分たちの町が流されるのを見ている姿を映像で見てきたはずであるが、閑上小学校の生徒たちの姿はそれまでに経験しなかった痛みを伴って心に残っている。子供たちの健やかな成長を願わずにはおられない。

閑上を後にしてその日は福島県伊達市の羽賀さんのお宅でお世話になる。山中の素晴らしいログハウスに大勢が転がり込んだのはもう暗くなってからであった。羽賀さんはもともと埼玉県川口市から協力隊に参加したが、帰国後しばらくしてからマレーシア人のご主人とともに伊達市に移り住み、長く豊かな自然を楽しんできた。しかし2011年3月11日に平和な生活は一変する。東京電力福島第一原発の爆発事故が原因である。ログハウスの周りは山林で以前はきのこやブルーベリーなどの果物を楽しむことができたが、今では夢物語になってしまったという。

翌日、近くの山へ桜を見に行こうということになり車に分乗して出かけた。が、桜が咲き誇る谷合に着くや否や羽賀さんが帰りましようと言い出した。なんで？と思って谷を見ると、そこは放射性物質の除染作業で出た廃棄物の仮置き場になっており、膨大な量のブルーの袋が積み上げられているのが目に入った。いたるところにブルーの袋が積み上げられていて、桜を愛でながら情緒を楽しむどころではない。昨夜は暗くて途中の周りが見えなかったが、羽賀さんのログハウスの裏手の山も大きく削られて廃棄物の貯蔵所になっており、大量のブルーの袋が積んであった。ずさんな除染について新聞に報じられたことがあったが、聞いてみると除染に従事している人たちはその道のプ

ロではなく、除染の意味が正しく理解されていないと思われることが多いようであった。

いったいいくつあるのか、ブルーの袋。羽賀さんのお宅の周りを少し回っただけでいたるところでこ



一体いくつあるのか、除染廃棄物の袋

の袋が積み上げられているのを見た。いつまで仮置き場なるものが続いて、今後どのくらい増えるのか、予想するすべを持たないがこのような状態が続いて先行きが全く見えないのを政府や東電はどう考えているのだろうか。使用済み核燃料の処理もまともにできないのに、そして日本全体を放射能汚染に巻き込む可能性のある福島第一原発4号機の危険が依然として残っているのに、国の成長戦略に原発依存を盛り込むという無神経さに改めて大きな憤りを感じてしまう。

プチ同窓会では一幕目、二幕目ともこの上なく楽しい時間を過ごすことができて大満足であったが、閑上では遅々として進まない復興に、そして伊達市では改めて原発事故無策を見せつけられて、憤怒の塊になってしまいそうな三日間ではあった。

マレーシア会会報というのはいわば公のニューズレターで個人の便宜に使うのはご法度であるが、厚顔無恥の誹りを覚悟の上で今回のプチ同窓会を企画して下さった皆さんに心からお礼を申し上げたい。



## 異国マレーシアでの子育て体験記

松林裕子（元ジスコ・ボルネオ旅行社勤務）

私は大学時代にサバ州の人と自然にすっかり魅せられて、卒業後はボルネオ旅行専門のジスコ・ボルネオ旅行社に勤務しました。その後、サバ州で野生動物の研究をしている主人が現地の大学で働くことになり、2010年から3年間コタキナバルで暮らしました。そしてその間、家族が増えてコタキナバルでの子育ても始まりました。ここでは、ボルネオでの子育てについてご紹介します。

日本のように行政支援の交流の場もなく、日中は暑くて公園での交流も難しく・・・日本に比べて子ども同士がふれあう機会は少なかったです。また、車がないとちょっと買い物が出て散歩をするというのも難しい状況で、当初、昼間は娘と2人で家にこもってばかりでストレスも溜まりがちでした。しかし、娘が一歳の頃、偶然にも同じマンションに同じ年頃の子どもをもつ日本人ママがいることが分かり、それからは子どもと一緒に遊ばせたり、色々相談にのってもらったりできたので、ずいぶん気持ちが楽になりました。やはり文化の違う異国の地においては、日本人のつながりは一番に心強いものでした。また、1歳半を過ぎからはインターナショナルスクールの親子で通う教室に参加しました。サバの人、半島の人、中華系の人、欧米の人・・・様々な人種・民族の人々とふれあうことができ、娘にとっても貴重な体験になったと思います。もう少ししたら、英語が話せるようになったらうなとちょっと残念に思っています。

離乳食の中心は熱帯らしくバナナでした。安くて年中手に入る上に美味しい！家には常にバナナの房がぶら下がっていました。その他、栄養豊富なパイナップル



に、フルーツシーズンにはマンゴスチンやランブータンなど。（日本に戻ってきてからもランブータンが食べたいと言うので

困っています。）その他食材は輸入の野菜も含めると種類は豊富にあるのですが、安心・安全を考えて極力地元でとれる有機野菜を利用。今はコタキナバルでも健康志向が高いようで、有機野菜を扱っているお店も増えています。また、ダイソーもあり日本の食料品も入手できたので、ずいぶん助かりました。



常夏のコタキナバルでは年中Tシャツに短パン、子どもの服が1シーズンで着られなくなってしまうということもなく衣服代もかかりません！布団をはいでゴロゴロ転がっていても大丈夫。湿潤な気候のためインフルエンザの流行の心配もなし！なんとも気軽な環境でした。ただ、外で遊ぶときは年中蚊との戦いが・・・。デング熱の心配があるので蚊にさされないように外では長袖・長ズボンの完全装備をさせることが多かったのですが、なぜか半袖短パンの現地の子どもはあまりさされず、うちの子どもばかりさされていたような。幸いにも大きな病気をすることもなく元気に過ごすことができました。

医療に関しては心配な面もありましたが、今は施設の整った大きな病院もできています。また、驚くべき事に公務員は、家族も含めて提携医療機関では医療費が無料！（公務員を厚遇しすぎだという批判もあるようです。）予防接種や健康診断などは日本のように行政から連絡がくるものではないので、かかりつけのお医者さんと相談しながら行いました。予防接種は日本よりも進んでいて、不活化の6種混合ワクチンなど効率よく受けることが出来ました。

最後に、現地に滞在中強く感じたことですが、マレーシアの人々は家族を大切にします。会社や学校では、毎年ファミリーデーと呼ばれる家族ぐるみのイベントが開かれますし、その他イベントも家族同伴のものが多かったです。マレーシアの3年間はのんびりした生活の中、家族の時間を大切にして過ごすことができた貴重な時間でした。

## マレーシアに着任して

今川 俊彦 (H24-3、ソーシャルワーカー)

私は 2013 年 1 月からソーシャルワーカー隊員としてスランゴール州に派遣されています。

所属先は United Voice という NGO です。場所は Selangor (スランゴール州)、Petaling Jaya (プタリンジャヤ) Seksion17 (セクション 17) で、首都近郊にあります。

マレーシアに到着した日は夕方、夜にはツインタワーの煌びやかなライトアップを見ました。自分の田舎は岡山県ですが、KL のような華やかさは無いので、とても驚かされました。それと同時に開発が進む中、街路樹がアンバランスに大きいの



が何故か印象的でした。私の配属先 United Voice (以下 UV) は、マレーシア国で初の知的障がい当事者によるセルフアドボカシーグループです。セルフアドボカシー活動とは自分たちで自分たちの権利を主張していく活動です。UV では、権利を知ること、自己表現の方法を知ること、自信を得ること、そして、自分の責任で、自分で自分がいいと思う生活を選んで生きることを活動を通して実践しています。

具体的な活動の一つに、月に 1 回の会議



があります。当事者の役員 (選挙で選ばれた人) が数名おり、議題を事前に決めた後、会議を開き「こないだの長い休みに何した?」「私は、田舎に帰っておばあちゃんとみかん食べて美味しかったけど、あなたは?」とか、「今度皆で行く外出先を決めよう。どこに行きたい?」「私はサラワクがいい。」「俺は買い物にいきたいね。」「動物園がいい。」など自分たちで意見を出し合い会議が

進みます。その横でサポートする人が「あの人が言っているのはこういう意味だよ。」「そのアイデアいいねえ。」と側面的に説明を添えて、人前で話すこと、感情を表現すること、意見を言えるという体験を重ねています。



自分たちの理想を真に言えたら、そして周囲に伝わったらこんなに素晴らしいことはないと思います。「理想はこういうものですが、ただ…まだ無理です」と言えたら後はやるだけです。「やるだけという、それこそが難しい」と、反論もありますが、それも UV



の方は承知しています。「いままでなかったけれど、こんなのがあれば尚いい」という理想が現実に見えることが大切だと気付かされます。UV ではそれぞれの理想をじっくり聞きながら、現実を少しずつ少しずつ動かしています。

私の活動は UV 内外で、まだ自分たちの権利を上手く表現できない人に出来ることがたくさんあるということを柔らかく伝えていくことです。今は UV でその凄い実践を日々学んでいます。3 か月が経ち未だ何も出来ないでいますが、私はつくづくいいところに配属になったなあ日々実感しています。

平成 25 年 3 月 29 日

今日はアートギャラリーの壁を塗り替え中

United Voice のHP :

<http://www.unitedvoice.com.my/>



### 第一回新年会・隊員壮行会開催

新年明けの1月5日午後5時から、Selangor 州派遣予定(1月7日出発)の今川俊彦(岡山県出身)新隊員の壮行会及び新年会が、東京都足立区にある郡OB宅にて8名のOB.OGの出席のもと和やかに開催されました。

今回は第一回の試みであったが、今後とも縦の繋がりを強める為に機会をみつけて実施していきたい。



### 第6回協力隊まつり

4月20日21日、東京駅日本橋口で第6回協力隊まつりが開催され、青年海外協力隊マレーシア会も出展致しました。あいにく真冬並みの天候にもかかわらず、OVやマレーシアに興味がある方、マレーシアへ行ったことがある方など多くの方が、ブースを訪れてくださいました。



青年海外協力隊マレーシア会ブース

### ☆募集☆

青年海外協力隊マレーシア会では会のロゴマークを募集します。作品をお寄せ下さい。総会時に投票で決めたいと思います。締め切り：8月末 送付先：当会メールアドレス。なお採用の方には賞状・記念品を進呈いたします。

### マレーシア映画祭

第一回マレーシア映画祭が5月24日～5月31日の間、渋谷のオーディトリウム渋谷で開催されました。全21作品が上映され、延べ1200名の方がマレーシアの映画を楽しめました。当会も広報支援としてお手伝いいたしました。

### ご報告

当会は平成25年4月より公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)の団体正会員として承認されました。

### ＝お知らせコーナー＝

#### 第二回総会

下記要領で総会を開催いたします。参加をお待ちしています。なお、総会は2年に1回開催いたします。

日時：平成25年9月22日(日)15時～19時

受付開始：14時

場所：JICA地球ひろば(市ヶ谷)国際会議場

プログラム：総会、講演会、懇親会

懇親会費：一人4000円、ただしご夫婦で参加の場合は、二人で6000円。子どもは無料です。

申し込み：電話：090-7186-1065

メール：malaysia@ics-together.com

郵送 裏面住所まで

詳しいプログラムは決定次第、国際協力サロンのwebサイト(下記)上に掲載いたします。

<http://ics-together.com/jocvmalaysia.htm>

#### 寄付のお礼とお願い

前回寄付のお願いを掲載したところ、ただちに下記の方から、ご寄付いただきました。

大西益吉郎(49-2)、松園雅和(49-4)、

高橋強(51-1)、加藤勇(54-1)の4名の方(敬称略)より、計35,000円の寄付をいただきました。ありがとうございました。

活動費として大切に使用させていただきます。

なお、寄付は随時受け付けています。今後ともよろしく願いいたします。

郵便局記号：10140 番号51611341

(郵便局外から振り込みの場合：店番018、普通口座5161134です)

口座名義人：青年海外協力隊マレーシア会

代表 白山 肇



セピロク・ネイチャー・リゾート内庭園 に咲いている蘭  
(マレーシア サバ州 サンダカン 2010年9月 白山撮影)

マレーシア会は国際協力サロン内に事務局を置きます。なお、この会報は青年海外協力隊マレーシア会会員と2010年の青年海外協力隊OB/OG会出席者にEメールもしくは郵送の形でお送りしています。配信を希望されない方はご連絡ください。また、会員は現在460余名ですが、まだ、会員登録されていない方には、是非マレーシア会のことお知らせください。

今回、郵送で会報を受け取られた方で、PCメールアドレスを保有している方はお手数ですが、下記メールアドレスまで、ご連絡ください。

発行 青年海外協力隊マレーシア会 会長 白山肇  
162-8433 東京都新宿区市ヶ谷本村町10-5  
JICA 地球ひろば メールボックス 51  
TEL : 国際協力サロン 090-7186-1065  
MAIL : malaysia@ics-together.com